

急増する正常眼圧緑内障

小林眼科クリニック 小林 直樹 先生

緑内障は、何らかの原因で眼圧が上昇し、目の奥にある視神経が侵され、視野狭窄、視力低下が起こり、進行すると回復が難しく、糖尿病網膜症と並んで失明に至る病気としておそれられています。

最近の全国規模の緑内障疫学調査によると、40歳以上で30人に1人が緑内障であり、驚くことにそのうち約6割が眼圧が正常範囲である正常眼圧緑内障であったというショッキングな結果が報告されました。全国では約200万人と推定されますが、実際に受診している人は20%で、残りの80%の人は自身では緑内障と気づいていない潜在患者であり、多くの人は視野狭窄が進んで初めて気づくか、あるいは健診あるいは人間ドックなどの眼圧や眼底検査で発見されるまで全く気づかずに過ごしていると考えられます。

このタイプの緑内障は自覚症状に乏しく、気がつかないうちに病気が進行します。緑内障により失われた視野は残念ながら薬や手術で回復することはできません。したがって、緑内障は早期発見・早期治療が非常に大切です。

眼圧の正常値には個人差があり、従来の「眼圧さえ測っておけば安心」という考え方はもう通用しません。決め手は眼底検査で視神経乳頭の状態と網膜神経線維層の変化、さらに視野障害の相関性をチェックすることが必要です。

原因はまだ解明されていませんが、現在、有力な説は視神経への血流障害により、視神経神経線維が障害されるものと考えられています。
